

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3771200304
法人名	有限会社お元気ですかショップ山下
事業所名	グループホーム青空
所在地	香川県小豆郡小豆島町西村甲2121番地1 (電話)0879-82-6368

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価決定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成20年11月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	6人, 非常勤 10人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	計量鉄筋造り 2階建ての1階~2階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	東側44,500円西側40,000円	その他の経費(月額)	12,000円+実費	
敷金	有() 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	225円	昼食	375円
	夕食	475円	おやつ	125円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(11月8日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.1歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内海病院	アイデンタルクリニック
---------	------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

瀬戸内海に面した好立地により、明るく快適な居住空間が得られている。地域の特性を生かし、住民との協力のもと施設運営に反映している。自治会、学校機関との連携もしている。地域での生活の延長に施設生活がおかれ、馴染みのある家庭的な雰囲気による介護が提供されている。理念の職員への浸透はもとより、常に研鑽に努める姿勢、穏やかに業務に取り組む様子が職員から利用者へと伝わっている。小豆島という地域性をさらに生かした展開が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の改善課題として、地域の中で暮らすための理念の具体化、介護記録の記録方法、洗剤の保管場所、日頃からの避難訓練があげられていた。これらは、全職員の検討のもと改善方法が構築され実践している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	外部評価に全職員で取り組むことにより、サービスの質の向上を心がけている。前回の外部評価を業務に反映し改善している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	自治会、家族、利用者、地域包括支援センターとの情報の共有化により、協力体制が整えられ、その結果、サービスの質の向上につながっている。地域密着型サービスの特性に応じた検討がなされ、運営推進会議の開催の意義がある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	毎月の様子を1か月に一度「あおぞら新聞」として送付している。状況に応じて、面会時や電話にて家族と連絡をとり対応している。運営推進会議へ家族が参加できるように配慮している。苦情、要望を気兼ねなく表せるように玄関に苦情箱を設置している。速やかに家族の要望が反映されるように工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	日ごろから地域の行事への積極的な参加や、散歩時の挨拶をするなかで会話をし、協力が得られるような関係が築かれている。また、教育機関との連携もはかるなど、自然な形で地域に溶け込み連携がはかられている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は家訓として事業所内に掲示している。前回の評価より地域の状況にあった理念へと具体的に明文化し取り組んでいる。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の一人ひとりが、理念である家訓を理解している。その中で、日々の実践における具体化、話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への積極的な参加、自治会の協力も得られている。また、教育機関との連携もはかるなど、良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に全職員で取り組むことにより、サービスの質の向上に心がけている。前回の外部評価を業務に反映し改善がはかれている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、家族、利用者、地域包括支援センターとの情報の共有化により、協力体制が整えられ、その結果、サービスの質の向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に連携できる関係づくりに努め、課題がみられた際には、問い合わせ、助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の様子を1か月に一度「あおぞら新聞」として送付している。近況が分かりやすく紙面づくりに工夫がみられる。状況に応じて、面会時や電話で家族と連絡をとり対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族が参加できるように配慮している。苦情、要望を気兼ねなく表せるように玄関に苦情箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、最小限におさえ馴染みの関係づくりに取り組んでいる。情報の共有化などで支援が継続している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念の共有化をはかるとともに、経験、習熟度に応じた研修が体系化している。外部研修への参加の際には、復命をおこない、全ての職員が学びの機会を持つようすすめている。資格取得への支援もしている。	○	島という条件もあるが、今後さらに多くの研修への参加をはかることにより、職員の研鑽をすすめ、利用者へ還元されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、他のグループホームと交流する中で、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な連携をはかっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前にホームを見学してもらい、本人、家族に雰囲気を感してもらっている。入居後、生活が急変することなく、馴染みの家具の使用、面会を増やすなど徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、利用者を尊重し、ホームでの生活を共同で行うなかで利用者の声に耳を傾け、共に成長しあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者の特性、認知症の程度を理解すると共に、判断能力が不十分な場合は本人本位に考え対応している。本人、家族のカンファレンスへの参加をすすめ意向を聴いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成において、本人、家族の参加のもとカンファレンスをもっている。また、面会時に家族の要望を聴くなどしている。計画作成において、聴取された事項が計画に反映していないことがある。	○	本人、家族の要望を具体的に介護計画へ明文化し、サービス提供がされることが望ましい。そのなかで、理念の具現化がはかれることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて、介護計画の変更に努めている。本人、家族の意向を聴くようにしている。一方で介護計画に期間が記されていないものがみられる。	○	介護計画の作成において、期間を適切に表しサービス提供がされることが望ましい。その中で、適宜、状況に応じた変更が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域における社会資源の一つとして認知されている。地域住民との交流や学校行事への参加など事業所の特性を生かした取り組みをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医においては、総合病院、歯科医院がなっている。また、本人、家族の要望により他の病院も受診している。その際、通院への支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時より意向の把握に努め、家族へも状況を報告している。かかりつけ医とも共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の利用者を尊重した声掛け、接遇ができています。書類、記録、パソコンにおけるデータ管理にも配慮し個人情報の保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかな環境のもと、利用者一人ひとりの生活が尊重されている。外出、行事、趣味活動など希望に応じ提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合わせ、栄養管理に努めている。準備から、後片付けにいたる行為において、個々の利用者の能力に応じて職員の支援がはかれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望にあわせ、入浴時間、順番の調整がはかれている。安全面にも配慮し、ゆっくりと入浴を楽しむことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活歴から見合った役割を得ることにより、生き生きとした生活を送ることができる。ドライブ、調理、洗濯など日常生活に根ざした役割もみられる。また、地域の文化祭への出品もおこなわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事への参加、近隣への外出など日常的に戸外へ出る取り組みをしている。海、山の双方に近い好立地にあり、よい気分転換となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについて、職員の意思疎通がはかれ、日中は、玄関の鍵をかけていない。センサーの設置により早期発見の設備は整えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の外部評価を踏まえ、1か月に一度、避難訓練をおこなっている。利用者の状況に合わせた避難経路、避難場所を設けている。地域の方の協力も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、利用者に適した献立を作成している。身体状況に応じた食事形態を用意している。食事摂取量の記録も適切にし常に摂取量の変化に気づくようになっていく。水分補給の必要性も理解し提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは、瀬戸内海が一望でき、日当たりもよい。利用者による作品の掲示がなされ明るく居心地のよい共用空間づくりに努めている。清掃も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭生活との馴染みが得られるよう、家庭で使われていた家具などを配置している。プライバシーへも配慮し居心地よく過ごせるように工夫している。		